

昭和三十一年九月二十九日招集(第三号)
第三回市議会定例会々議録

館山市議会第三回定例会会議録(第三号)

昭和三十九年九月招集

一九月二十九日(火曜日)

一 議事日程(第三号)

第一議案第八十二号 寄附の收受について

議案第八十三号 昭和三十九年度館山市一般会計補正

予算(第三号)

議案第八十四号 昭和三十九年度館山市公益質屋特別

会計補正予算(第一号)

議案第八十五号 昭和三十九年度館山市国民健康保険

特別会計補正予算(第一号)

第二議案第八十六号 昭和三十九年度館山市と畜場特別会計

補正予算(第二号)

議案第八十七号 昭和三十九年度館山市簡易水道事業特別

会計補正予算(第二号)

議案第八十八号

昭和三十九年度館山市上水道事業特別

会計補正予算(第一号)

午前十時五分 開議

。議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数二十六名。

こゝより第三回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

こゝ際、申し上げます。

議案第八十二号乃至八十八号については去る二十五日の本会議において内容説明は終了いたしておりますので本日は直ちに質疑に入ります。

日程第一 議案第八十二号

一〇番(廿田実君) ちよっとお尋ねしますが、地積と書いてあります。この数字は平方メートルですか。坪ですか。

○農林水産課長(伊藤幸太郎君) 畝でございます。

一〇番(廿田実君) そうしますと、六反七畝十二歩ということになります。この中で、北条、小川、三さん、国分、原田敏雪さん、千葉井天町、小原幾久代さんという方が土地が七百七十七坪になるわけですから、この点につきまして、構造改善事業に伴うということでも出ておりますが、山本、安布里地区の構造改善事業に直接関係がないというんですか。この三人の方がどういう形で寄付収納をしたか、この点についてお伺いしたいわけです。

二番目に山本、安布里地区というふうに番地が出ており

ますが、二つらうすべて、人が改善事業の一員であるか、その区別がはっきりしない。この点をはっきりしていただきたい。

第三番目といつて、まゝて構造改善事業に携わる人が、この中におると思ひますけれども、それらの人に対してまゝでは構造改善事業といふことでもって、大きな助成金、補助金、利子補給といふようなものがありますので、直接利益を受けますので、多分の土地の提供、そういうものについては問題がないわけでございますけれども、私が今申し上げました改善事業に参加しない人につきましては、直接利益がない。そういう人たちは、七百坪相当の坪数が無料で提供されたいか、二つを三番目に聞きたい。

というのは、構造改善事業に参加しない人から取つて

し、まうと将来、金銭的な問題が起きはーないか、この点を心配する中で、明確な中答弁をお願いしたいと思うわけでございます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)ここに名簿をうけておきます方は、今度の構造改善事業の実施区域内に耕地を持っておられる方でございます。でございませうで北条の方、安布里地域以外の方も土地を持っておるわけでございます。その土地がただ今申し上げましたように国道の直線化に伴いますところの、つぶれ地の所有者ということでございます。そう方々に一応、申請を願いまうて、国道の新設に伴います、測量工事の促進をはかりたいということでもう了承を得たわけでございます。

大体、以上で三點につきまして承りました。ただけると思

いますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「質疑なしと認めます」。

本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「異議なしと認めます」。

よって本案は原案通り決まりました。

日程第二、議案第八十三号乃至八十八号を上程いたします。

ただ今議題となりました議案中八十三号議案一般会計補正予算の事項別明細書のうち誤植がありまして訂正いたしたいという申し出がありまして、よってこれより当事者より説明を求めます。

財政課長(長谷川広治君)申し分けございませんが印刷の誤りがございましてやり直し訂正願います。

一般会計の予算明細書、歳入の一番上の欄でござい
ます。

市民税の欄でございす。補正額五百八十二万一千円
というふうになっておりますが、それが六百八十二万一千円に
従いまして、合計の数字が二億八千八百万円になるわけでござい
ます。その下の個人の欄も同様でございす。二億八千二百万
円の五三二一六になり、節の欄も六八二一六になります。
議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前十時十五分

休憩

午前十時十六分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
本案に対する質疑を行ないます。

一六番(関武夫君)一般会計の教育費についてお尋ねいたします。

教育総務費第二目事務局費十九節負担金、補助金について、道徳教育推進助成補助金四万一千円、安房教育研究所補助金三万円、こやこや団体の性格と申しますか、それから市がどんなメンバーが出ておるか、そういう点についてお説明いたします。

。教育長(上藤和平君)お答えいたします。

道徳教育の助成金でございますが、道徳教育という名目が誤解を生ずるおそれがありますが、実は教育全般にわたる各教科指導、こういう金域にわたる推進でございます。そうしてこやこや本体は教育庁

安房出張所、そこが一定重点的に本年度取り上げて
おるうでございます。

安房出張所の中にあります指導室、地方指導主事
を中心にする助成ということになるわけでござい
ます。教育の負担金につきましては各市町村の
連絡協議会というがございす。

それにも負担してございすけれども、その金は、
管理面取員の人事異動でありますとか、その他
の管理面の負担金がおもなものであります。そ
れよりも、大事な学習指導の面が欠けておた
わけなんです。

この際、学習指導、教科全般にわたる強力推
進をお願いするということ出張所が地方教育
委員会に対して負担金をお願いいたわけな
んでございす。その研究学校と研究教科
については出張所の指定で

ございますが、こういう研究学校に出張所から補助
を出す。その分担金又部署から天下り式に
~~道~~道徳教育をやる。ううみくいてやるわけではあ
りませんで、安房出張所が自主的にその必要性を
認めまして、各地区の委員会にも願ひしてあるわけで
ございます。

おれおれどうしても必要上、やむを得ないというふうにか
えてあります。

次、教育研究所、運営資金、これは庶務課長から
申し上げさせました。安房教育会館というものがございま
す。あそこはもとと教員組合が建てた建物でございま
すけれども、あの中へ研究所の主体を置いて、郡市の生
活があそこをねじろにして活動と続けておったわけで
ございます。

現在会長は、館山一中の田中校長でございます。

都立一諸、活動ということについては、我々あきらめない点
がございまして、市が独自の五場で学校指導行政を
行ないたい。こういう観点に立ちまゐりて、当初予算に
館山教育研究所を設置したいという熱望を申し
上げたりでございますが、いろいろの事情で実現
できなかったわけでございます。

そこで現在あります教育会館の中、研究所に寄
付を郡は、出してありますので、市も出してより強力な
発言、より強力な実践活動に乗り出したいというわ
けで負担金をお願いするわけでございます。

・一六番(関武夫君)そうしますと、道徳教育の団体は、
各学校取員金全部入ってゐる。

それから、教育研究所の方は、取員個人でやっております。

ころうふうにかえてよろしいわけですか。

・教育長（工藤和平君）従来はそうように考えますけれども
 今後は各市町村がそれを受け持ったということでございます。
 います。そう補助金でございます。

・三三番（中村省吾君）私も道德教育と安房教育研究
所導員補助金。こゝ二つに關連してお尋ねする
 わけでございますが、ただ今うや答弁の中で道德教
育に關してうや説明があつたんですが、まだ釈然と
 しないものがございまして、改めてうや質問申し上げます。
 たと思ひますが、道德教育というもの、その自体、いか
 なるものか、その点、うや理解をお伺ひたいと思
 います。

・教育長（工藤和平君）道德教育の定義ということであ
 りますが、戦前の教育勅語を中心とした道德教

育ということは戦後はほとんど用いられないわけでございます。まして公徳心や高揚でありますとか、或いは当然、生徒児童としてかくあるべきといったような一つけということになるが、生活指導を通じて身につけさせる。そういうふうになつてゐるわけでございます。ましてこれは学校教育に根本的に必要だ。こういうふうを考えておるわけでございます。

従いまして文部省や天下りでなく、本当に子供が学習を修め、学校や指導をおさめる上に必要なマナーとでも申しますか、これはどうしてもこの程度教えなければならぬという点を教えるというやり方ではございませんが、各学年に適合した内容を持って現在実施してゐるものでございます。

。二三番(中村省吾君)そうしますと道徳というものが教育長

「天下りのなものでなく」という言葉を使わなければ、また明治憲法以来のものでもなく漠然としてた言いかをこいておきますが、そうしますと、追加予算としてここに助成金としていはいく出ておるわけでございます。教育委員会として道徳教育補助金として出すか、らには、道徳教育がかくあるべき、こゝような次女が本當の道徳教育というものをつかんでおらなければならぬと思います。従つてそういう観点から、今一度、道徳というものを考えなお聞かせ願いたいと思います。もう少く、具体的に申し上げますならば、児童の姿というものをどういう姿になることが正しく道徳あり方であるか、子供に求める道徳というものを理想の像はどこにあるか、そういう観点から、説明願いたい。教育長（工藤和平君）具体的に申し上げることは、私もで

さむいわけでございしますが、先ほど申しましたように子供が生活上、この程度のこととは人間として、日本人として必要なこととが、こういうことは慣習的に持っていないければならぬではないか。特に今の教育の重点は社会強化にあるのですが、これに結びつけて多くの人とつき合つて、こうあらねばならぬ。自分ためばかりでなく、公けうために奉仕するといったような友愛の精神、共同の精神、そういうことに基調を置きまゝてやることが道徳教育であらうかと思ひます。

一々こういうことということは述べる必要はないかと思ひます。

・三三番(中村省吾君)大体わかりまして、そこで道徳教育というものの教育長が考え方は、大体推測できるわけですが、そういう考え方の中で天下りの道徳教育はだめ

さんだ。そういうことはいいないのだということを申しかけた。
 そういう観点から道徳教育の助成金というものが、いか
 なる形で使われてゐるものか。どうようにこの助成金を使
 うのか。先ほどの中答弁の中では、安房出張所や
 指導室に対する補助だとなつてゐた。そうしますと
 教育長がもしやられた文部省の天下りの教育
 のものではございませんということとどうも矛盾するのでは
 ないか。安房出張所というものは文部省の管轄になる
 と思う。その方が外にのつてゐるわけです。そこに補助し
 て天下りの的々もつてないということが果してゐるかど
 うか。私には中答弁が矛盾してゐるように考えらる。
 この点お伺ひいたします。

教育長(工藤和平君)説明がまづかつたように又省してあ
 ります。

安否出張所の指導室に補助を出すということはお説
やうに何かつながるやうに私に説明が足りないと思ひ
ます。

先ほどちよつと触れまゝだが、各市町村教育委員会
が自主的にこういうものをやるといふ考えは、研究所
から提案も出ておりますが、各学校長あたりからも
出ております。それを勘案して出張所の指導室に
おるものがこれを指定し、研究のテーマにしようといふ
うで、きめたいでありまして、逆に言えば、各地方教育委員
会が集まりのことも、そのうちに寄付をする。補助をす
る。こゝう解釈するのが当然でございます。
従いまして、各地方教育委員会というものが、教育の中
立を堅持してありますので、上からの天下りではなかつ
たうふうに申し上げたいでございます。

二三番(中村省吾君)そうしますと、この補助というものは、館山市の道徳教育の推進に補助するということではないわけですね。

あなたがなつてやるように安房出張所の指導課に対して補助ということ。金のゆくえは、そこということですが、教育長(工藤和平君)今の御質問の点が聞き取りなかなんです。

二三番(中村省吾君)安房出張所の指導課に対して金のゆくえは、そこかどうかということですが、

教育長(工藤和平君)これは先ほど申しましたように、これは、関係員の質問に対して申しましたように、各市町村の負担金といひますか、教育に対する負担金があるわけでございます。

館山市の場合、十数万位あります。それに対する大半は、

教員異動旅費、そういう人事管理の面に費すわけですが、それではいけない。それよりも指導行政が大事ではないか、ということ、本年は指導室も大きなウエイトをかけてやっておるわけでございます。

その金を納めるところは出張所ではございませんで、安房地区方連絡協議会でございます。従いましてこれは文部省と一つなかりはなく、県と一つなかりもない。独自のもうと考えております。

・二三番（中村省吾君）教育長さん考えていただきたい。人事云々ということではなく、あなたの方で提案してあります。

道徳教育推進補助金ということではござらぬ。

道徳教育とは、そこで何かということとを申し上げた。

その点はいいんですが、この補助金はどこにどう使われる

うだ。私心配するうは。追加予算として出されたそうも
うがいかなる計画によつてどうように使われていくかという
次女が知りたいわけです。それで質問したわけです。

そうすると要約すればあなたの方では道德教育の推進
のため直接使われるものではないということが明らかになつてきた。

いわゆる安房出張所に集まる連絡協議会。そういうもの
を通つて補助であるということはあるが、あなたが今おつ
まつたことだ。そうすれば、この補助というものは、大きな問題
があるかと思ひます。確かに今道德教育というものは、
きわめて重大でございます。

非常に大きな問題だ。また、これはどむづかしい問題は
なからうかと思ひます。そういう中で、今、学校当局、特
に先生方が道德教育をめぐりまして、このあり方につ

いて大論争を展開しているようにございます。

そこで道徳教育というものは、追加予算を市が出すか
うには、少なくとも直接教育する何らかの補助であ
ろうかと私は思ったわけです。ところがあむたう説明
を聞いて見ると直接さうもうに使われるかどうか
むい性格のもうだ。ここに出すからにははつきりとした
使途というものを明確に出してもらいたい。そういうことか
いえる。

それから教育分担金云々ということをおっしゃる。そうして
いきますと、あなたも答弁の中から察せられることは、中央
とおっしゃっておるけれども、各市町村そのものが分担
金云々こういうふうに出しているということとは、裏をかえ
せば中央と関係がある。

あなたも存じなろうと思いますが、館山市では道徳教

育の推進校として那古小学校と一中でございます。
各安房四ブロックの中で小中学校一校ずつ指定する
ということはお存じだろうと思います。

館山は那古と一中が指定されてゐる。一か一ながらそう
道徳教育というものは推進校は受けなければいけません。館山
の場合には実際には特設課目として道徳教育は
発足していません。私はさういうに把握しております。

その中において学校によつては、大部署によつては、調へ時間
の道徳時間を設ける。その中でいわゆる徳目と申しま
すか。小学校については、三十六中學校に二十一、この道
徳というものを実施してゐるわけでございますね。さうい
た中で先生方が一番悩みに思つてゐることは何か。そのく
とは、さういつた道徳教育で果たして本當う今の教育が
できるかどうかということをお悩んでゐる。

どうしたら、私が最初に聞いたような道徳というものを、
どこに求めるか、ということでは悩んでおるわけですよ。

従って、そういう悩みを解決するため、育成補助金な
らば、生きた金になります。ところが、あなながおっしゃる
出張所を中心として、各市町村の、連絡協議会か何か
知らぬけれども、そういう団体に寄付して、果たして本當
の道徳教育がでるかどうか。これが問題なんだ。

いま一度、私が申し上げようかな。観点から整理し
て、今までのところ、市答弁を願いたいと思います。

・教育長（工藤和平君）道徳教育のことにつきまして、再
三申し上げましたので、辞けますが、今頃になって補正予
算に出す必要があるかという市質問もあるようですよ。
います。これは、年度当初に詰合いがございまして、途
中になつてから決定した関係で、補正予算にいたわけでご

ございます。なお、悩みを持つてゐるという問題、これは私も
 同感でございます。先生方非常に悩みを持つてお
 ます。と申しますのは、や案内、やうに戦後、混乱
 の中に育つた子供、先生方もあらうと思ひます。そ、頃
 学校にあがつたという先生方、従つて、悪くいひますと、
 五里霧中、どういふ姿で教育、たらいいか、という先
 生自身が、そういう悩みを持つてゐる。そこに持つてき
 て、道德が必要だ。自由奔放になつた。そ、姿、逆
 なことも教えなければならぬという悩みがあるわけであ
 まり、おつゝやる痛、先生も子供に對しては、これに對
 して非常に悩みがあるということを認めます。
 悩みがあるだけに必要なことであつた。社会人として
 日本人として、従ひまゝ、こつゝ研究、こつゝやうなこ
 には、補助金を出してやること、が至当であらうと思ひます。

重要性からいつて、悩みがあらばあるほど必要があらうかと
思っています。

・二三番(中村省吾君)最初に話をもどってきますが、何とか質問を先に済めたいわけなんです。が、あなたが今、提出された道徳教育推進というもうがいかなる形で、どういふうに計画されて使われるか、これをはっきりさせてもらえば、問題は先に済む。その点が指導室云々といつて、やはり、各市町村の教育委員会云々といつて、いろいろ問題が複雑になってわからないわけです。

直接この金が学校当局やあなたがおっしゃられたような悩みの金に直接使われないといふことは明らかになつてきた。あなたも提案されたものがいかなる方法で運用されるか、これを明確に回答を願いたい。

・教育長(工藤和平君)各市町村から負担金として、それぞれ

の金と連絡協議会の方に納めるわけでございますが、連絡協議会から今年度指定していただいた学校に或いは、館山の国語教育の研修、或いはその発表研究、道徳教育は一中と那古小というように研究会は、承知のように印刷するだけでもなかなか大へんな費用がかかるわけでございまして印刷するためには先生方の研修になるんですが、研究成果をうせて、そうしてこの学校ではこういうテーマでこういう積み重ねをして今日の発表に及んだのだという実態を示すわけでございます。そういう金にこいが使われるわけでございますから、直接子供や脳を解消するためには貴重な金であるというふうに解釈します。

。三番（中村省吾君）その問題を一時保留いたします。そうしますと、今あなたがおっしゃったことから推測いた

しますと、承知のようによ葉果には小・中学校教育
研究協議会というものがございすね。いわゆる小・中研
と申します。あなたや説明になったことは、道徳教育
推進助成金とここでは出ているけれども、その内容は、
小・中研の助成金ではないかと思うんですが、いかがで
しょうか。

教育長（工藤和平君）お答えいたします。小・中学校の果
の研究協議会というものがございす。

それから助成金を出せということが五月の勝山における果
下の教育長会の際に果の指導課長から突如として
出さなかつた。これはまさに天下りだ。我々に事前に相
談しないで我々がもつとも重点を置いていた問題が果が
一方的にきめ各市町村に出せということとは筋が違ふ。
これは館山市もそうでございますが、補助金は出さないこ

然

とにさせてあります。いわゆる集^る研^究補助金とは違^います。

。三番(中村省吾君)出さないことになったということでございますが、小中研に対する補助は一切出さないそうでございますので、その点よろしうと思ひます。

ところがなぜ、そういう質問をしたかと思ひますと、小中研の中に国語数学あらゆる分野、その中に道徳教育部門も入っております。従つて中説明の中で私がどこで

どう使うと質問したときに道徳といつても分野が広い。教^育学^の研^究会とか、もういろいろのことを教育長はおつてらいて、そういう研究発表表、その成果を印刷して、一つずつまとめたをやるのだ。こういう中説明があつた。こゝは小中研と関係——しているものかと思つた。——てみると、女房における道徳教育というもの、一つは考え方で別々考え方も

うを持ってゐるかどうかということなんです。

要房出張所が例えばあなた方が出すんですから、館山市の教育委員会として、それに對するものを持つてゐるか、その点いかがでございませうか。

・教育長（工藤和平君）各教科道徳教育を含めて各教科の
くあるべと申しますか。何と申しますか、教科書のううなものは
教育委員会では持ち合せてございせん。これはここ
ばかりでなく、ここにもないと思ひますが、ただ自分勝手な
ことをやるということではなく、参考書なり、教科図書なりは
あるわけでございます。それによつて各学校の実情に
応じて、この点にウエストを置かなければならぬ。こうい
う教え方をすることは事実でございします。

教育委員会はございせんが、これを教える基準は各現場の
学校にあるわけでございします。それによつて教えております。

二三番(中村省吾君)だんだんわからなくなってきましたが、もう一回聞きます。最初にもどりますが、安房出張所の指導課の中へそこにとにかくこの補助金を出すということなんです。その形の中で道徳教育というものの目的に使われるということをおなたちはおっしゃってゐる。

安房出張所に出すその金があるとして、館山市の道徳教育というものはわかりがあるかということお私にはわからない。それが一点。もう一つは出張所の方からこうした補助金を出して行くという要請があったと思うんですが、それについておなになるとはつきり申し上げたいと思います。九月十八日に果ては教職員組合と平葉果ては教育庁指導課との間において、道徳教育の計画は白紙にかえし、当分延期するという話、合意が成立したことを存じでございますか。あるかないか。

答弁していただきたい。

・教育長（工藤和平君）私存ドておりません。

・二三番（中村省吾君）そうしますと、この補助金というものが、そういう千葉県の教育庁も道徳教育に関する計画は自紙にかえりて、当分延期するということとを九月十八日話し合ひが成立してゐる。そうしたものがあつたにもかわららず、かかる助成金を出してどういうことになるのか。

千葉県教育庁と話し合ひができたにもかかわらず、教育庁の安房出張所が道徳教育の助成金として銘打つて出す。おかしいではないか。

・教育長（工藤和平君）千葉県の教育庁の組合に申しれたことが、我々に公文書として流れてきておりませんので、私存ドておりませんと申したんです。先ほどから申しましたように、道徳教育と申しましても、こゝが重点的に取り上げられたと

いうことは事実であります。各教科全部にわたります。うで広義に解釈して道德教育の推進助成といつても私はさうつかえないと考えるわけでございます。

議長(黒川佐太郎君)簡単に。

二三番(中村省吾君)私の方は簡単にいいんですが、明確に答弁されないからそういうことになる。

道德教育が全般にわたることは当然だ。従つて特設教育で道德教育はできない。これは当然だ。

道德教育というものは、週一時間、特別教育というものを設けて、徳目小学校や三十六中学校で二十一项目を定めた道德はあり得るはずがない。

数学とやる中に道德はある。そういうことは私も存じております。そういう中で一つテーマを与えて道德というものを引き出す。

こういう教育こそ一番重要だ。

そういう中で私が今、いよいよたことは九月十八日にいわゆる
週一時間云々とか推進校とか、そういう中で実施される、
道徳教育というものは問題があるうだ。従ってこの道徳
教育の計画というものは白紙にかえて、当分延期する。
こういう話、合いが果においてできておる。

それにもかかわらず、道徳教育推進と銘打って出したもの
に問題がある。

先ほどもから私がいつておるように出すならば、出た先でどう
いうふうに道徳教育に使用されるのか、それを聞いても
全然答弁がない。従ってこれを申し上げるわけはこういうもう
が妥当かどうか、意味ないだろう。ということをおいておる。
この点教育長が考え方を了解いたしまして、打ち切りま
す。

次に要房教育研究所運営補助金、件、これも皆さん
おつてらうまいけれども、こゝについて、教育長の提案
説明で館山市の発言権を大きくするのだということもいた
一体、こゝに三万円出したことが、発言権を強くして何の価値
があるか、その点、説明願いたい。

・教育長（工藤和乎君）やはり、郡市の対立ということではござ
いませんが、金を全然おさかいで、おれの方だけに有利に講
師を派遣して行く。こういう研究をおれの方にだけ持つて
きて行く、ということは、いいがたいわけではございまして、発言権
ということば、そういう意味で申し上げたのでございまして、
語教サがございますけれども、やはり町村並みに町村
に準じて金を出すことによって、我々の活動がよりみんな
の協力を得て、円満に遂行させたい。こういう念願で
ございます。

・二三番（中村省吾君）どうも安房研究所、趣旨と違ふと思
うんです。教育会館にある研究所ですか。こゝ澤登と
いうものは、目的というものは、安房地区内、教育上、問
題点を明らかにして調査、研究を行なう。こゝが主たる
目的であらうと思つてゐます。そのため教育、相談部
問題、児の教育、或いは生活指導等、そういった多岐多様に
わたる教育、問題点を明らかにしてゐる。こゝことが研
究所の目的であるわけです。

従つてその中に三万円出して発言権を強くする。何ぞと
だ。三万円出すことによつて、館山市、教育上にいかによ
ラスするのだ。そういう性質のものではないからぬ。そ
ういふところによつて発言権を強くしても、価値がない。
やらないよりはいい。ただ、そういう研究所の中で私に配
する、は、わずかな専門的な人たちが、安房郡市、全般

的な問題点を明らかにしてきて、それを主題にして、各学校が将来の教育の資料にする。

館山市の場合でいうならば、館山市の北条地区、館山地区、表現は悪いんですが、都市部と称します。

そういつたところと或いは漁村、また農村地区もある。

そういう非常に環境の違った状態が館山市の中にある。

安房郡市全体で調査研究が直接的にどうようにひびくかという点、私は問題がある。

それならば教育長も答弁をいまいたけれども、館山市が将来、そういうものを独立して作る。そうして館山市の大軒町、なら大軒町、北条地区、それから富崎地区、甘房地区とか、そういうような教育上の問題点を明らかにしていく。その中から教育の指針というものを求める。そう

してはじめて館山市の教育の向上がある。従ってあなたがおっしゃるようなようにここに三万円出してそれを出すことはいい。それを出すことは館山市の教育の参考になります。——か！発言権を強くするために出すのではない。
私はそう思う。

。教育長（工藤和平君）研究所の資格といた——まして調査研究、もちろんお説の通りでございますが、もともと私、大事なものはその調査研究を主題にしていかに実践に移すか。これが大事でございます。

なおお話のように安房郡市の一部、館山市を考える場合にはおかしなところないか。その通りでございます。

館山市だけ申しましても、十ブロッグになっておいて、漁村、農村地区、こういう性格の違った地域の特例を持っておりますので、それに即応する研究を推進するためには、館

山市に教育研究所が必要だという考えを持ったりは、私どもも同感でございます。これは本年度は実現できなかつたわけでございます。

長門郡市一本になった研究所によって我々が足りない点を補っていきたい。もちろん金を出します上は、これに最も有効適切に運用されるように十分な助言と希望を申し述べて、これが有効に使われるようにしたいと思つてゐるわけでございます。

三番(中村省吾君)発言権を強くするのではないかと、いうことでございますね。

はつきりそういう説明は間違ひであつた。そのなう了解いたします。結構でございます。以上で私の質問を打ち切ります。

議長(里ヶ佐太郎君)午前、会議はこれにて休憩いたします。

午前十一時一分

休憩

午後 二時三十七分

再開

議長(黒川佐太郎君) 午後、出席議員数 二十九名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第八十三号乃至第八十八号補正予算案の質疑を
続行いたします。

・二三番(君塚喜三君) 二点についてお伺いいたします。

第一点は歳出教育費の小学校費について、関連でござい
ますが、実は当初予算で学力向上機械器具費、いわゆるシン
クロックスの百四十万というものが組み込まれておたわけ
でございますが、一、四十万六千円、十台分なんだ。ところが小学校
は十三校あるわけなんです。従いまして、その残り三校

についてどうような処置がなされたか。また、不足するならば、当然補正予算に組まなければならなかつたのではないか。こゝように考えるわけなんですすが、この点についてどうようになつてゐるか。お聞きしたいと思ひます。

次に歳入の問題なんですすが、固定資産税が二百五十万という補正についてでございますが、市民税となると、所得が伸びにやるところが自然増ということも考えらるわけでありすが、固定資産税につきましても、いまから算出基礎であるところの、評価額の變動等というふうなこともあろうはずがない。

考えらるるところは新築とか増築或いは新たな機械の導入といったようなことに相なるわけでございますが、それについてましても、この間に二百五十万というふうな増は考えられないことでありまして、もしそれも考えるところ

ならば、これは調定見込みに対する徴収見込み率の九四・三％という率を上回る見込みに対する徴収見込み率の九四・三％という率を上回る見込みということになろうかと思つてございます。だとするならば徴収見込み率を何％と見込まれたか。

市長は三月の予算市会におきまして施政方針の提案説明の中で「可能な限りの財源を租み入れて予算総額について前年対比九千五百六十万円余、一七％の増となった」ということをおべていうつています。

大体三千三百万の補正を可能な限りの財源を租み入れておられたはずの当初予算審議から六月かたつていない今日、出てくること自体、どうも不見識ではないかと思つてございます。ともあれこの九四・三％という徴収率、これは非常にあまり見た。故意にあまり見たという

ことが補正にこういう事態が起ることを予想のもとに
~~隠~~予算というんですか。そういう予算編成のテクニッ
 クとしてこれが出さなくてはならないか。こういう気がするわ
 です。ともあれ算出基礎とも徴収見込み率の増
 を見込んだもつだとするならば何%とたもつであるか。
 この点についてお伺いいたしたいと思います。

庶務課長(千場伊右衛門君) 第一点の小学校のシンクロッ
 クス、百四十六万円の件でございますが、これは指導競争
 入れの結果、安くなりまして、十三校分全部購入い
 たしました。

調査課長(高木哲三君) お答えいたします。固定資産税の
 補正でございますが、自治省の配分にかります額がはつき
 りいたしませんので、当初予算には、内輪に組んでおいた
 で、こういう数字が来たのでございます。

極洋捕鯨とか、東電、そういうところになりますと、自治省から配分になります。その額が年によってかわりますので当初予算にはいつも組まずにおきますので、あとでできたでございます。

・ニニ番(君塚喜三君)最初「シンク」は「フックス」の件なんです。が、当初から十校分として十台ということでもって一台十四万六千円というやり説明がなされたわけですが、十台買うことにおいて十三台買えるという事態が起きたということからやっただけです。

機会均等というわけは十三台分として要求がなされた。それが競争入札のために十一万二千円ほどになるんですが、そういうことになったり、話がわかるんですが、十台ということではなさい、補正予算であと三台かが出てくるのではないか、という気がしたんですが、その点、もう一度お伺い

いたします。

なお、固定資産税のことなんです。いつもそのような処置がなされておる。それが一つ、隠し予算というんです。こういうふうに見てよろしいんです。

庶務課長（千場伊右内君）お答えいたします。シシクロブツス、当初私の方で考えましては、一校分十四万六千円、予定で十三校分、計画したわけでございます。予算の関係で一応十校分といたしてございしますが、その後指名競争入れをして見ますと、数が多いということ。私たちが考えていたよりも安くなるということがおわつてきまして、あと三校分をやはり購入した方がいいんではないかということで三校分をその金額で購入した次第でございます。

調査課長（高木哲三君）これは隠し取原とかそういうことで

ございまして、自治省から配分ですと、いろいろな関係でこちらでは計算できませんので、歳入欠陥を生ずるといけませんから、内輪に評価してございますので、その差額でございます。

○一番(辻田実君)衛生費のトんかい処理費の賃金等の面について、~~増~~賃金向上したいと思っております。

ここに四十二万円が補正されておりますけれども、これは増員と賃金上げによってということとで説明されたんですけれども、これが一人当りの金額が今までどの位支給しているのか、まずお伺いしたいと思っております。

○衛生施設課長(吉田耕一君)現在五百円、五百五十円でござい
ます。

○一番(辻田実君)これに関連して、先般市のトんかい処理車が事故を起こしたわけではございますけれども、その事

故によつて、三人ほどけが人が出たわけで、そうけが人の補償の問題はどうなつてゐるか。お伺いしたいわけです。

その補償について二つう面でお伺いしたいわけです。

一つは治療費、並びに傷害補償というんですか。この面は、どうようになってゐるか。もう一点は、公務によるところの傷害だと思つうわけでございますけれども、臨時人夫でございまして、この病気期間中の賃金については支払うのか、支払わないのか。この点についてお伺いしたいと思ひます。

衛生施設課長（吉田耕一君）補償の問題でございしますが、まだはつきりした、どうふうにするか、ということにつきましては、線を打ち出してございせん。

二番目、治療費、関係でございしますが、治療費は、災害補償に全部入つておりますので、その面から金額支出

するといふふうになっております。

それから休養中の賃金でございますが、そういうような面等
はまだはっきりいたしておりませんので、補償というような面と
からみ合わせて検討してみたい。このように考えてまだけっ
きりした線を出してございません。

○一番(辻田実君)次に清掃車につきまゝては、非常に市政の
中のクリーンヒットと言われているわけでございますけれども
もそれが障及した走行の中において行なわれているわけでご
ざいますけれども、これは先般事故が起きまゝて敬言察
等の関係者からいろいろ事情を聞いたわけでございます
が、足貫外の乗車並びに塵芥の上に乗って非常に危険の
状態の中で走行しておる。このにつきましては取り締り当局
においても注意をしなければならぬということだったのだけ
れども仕事の内容等から大目に見ておった。

しかしながら、ああいう形の過失傷害事件も起こり、
 いかにも、交通安全旬間の第一日目に起きたからには、
 書類送検をして事故の追及をしなければならぬと
 いうことで、現在、そういう面を捜査にあたつてゐるわけで、
 ごさいまするけれども、明らかに「違反」であるということをご
 認識して、市は乗車させてゐるのか、その点について認
 識してゐるのか、おらないのか、「違反」という事実をどう
 いうふうにかへてゐるのか、その点についてお質問いた
 たいと思つてゐます。

衛生施設課長（吉田耕一君）　今お質問、通りでござい
 まして、私も痛感してゐます。

従いまして、今後そういうことのないように持つていきたいとい
 うことをお報告申し上げてお答えいたしたいと思います。
 「違反」の走行につきましては、お質問、通りでございます。

ーカーながら、現在、館山市の状況といたーまーて、ああする以外に方途がなかったと、私考えるわけでございます。

ーカーながら、やむを得ず、ああした走行を続けておったことは、まことに申し分けないと存ずるわけでございます。なお、敬言葉関係につきましても、正式な注意音ではございませんが、いろいろお話等もございまして、私どもも現状を訴えまして、何と申しますか、承知したというのではございません。黙認をーていただいておったのだというふうに、私ども考えるわけでございまして、取り締り当局にも申し分けないと考えるわけでございます。

次、私どもが認識してやっておったかという問題でございますが、今申し上げましたように、確かに課長とーて、認識して運行をお願いしてあったわけでございます。

なお、この事件が起きます前、私といたーまーても、

できるだけありた無理な車や輸送でなく専門車
による収集に努めたいというふうな計画は逐次進め
おたわけでございますが、たまたま今回の事故にあった
わけでございます。その点、深くおわび申し上げま
お答えにかえたいと思つたわけでございます。

。一 番 (辻 田 実 君) これは人命問題でございますので、
をしておきたいわけでございますが、交通問題とい
うのは交通戦争といわれるほど重大な問題化してあり
まして、私も今や自動車をもすぐに定員外乗車と
やめまして、市民から非常に喜ばれておるところ
塵芥処理に支障を来すことはわかっております
けれども、市民の利益といつても交通問題がブロー
アップしている中におきまして、市や塵芥車だからとい
つて交通違反をやつていたりでは非常に工合が悪い。

敬言察の方にも暗黙の了解をもちょうというふうなことはやめるべきだ。と思うんですが、あの走行について相当の支障が起きると思います。けれども今後きょうから通違反らない操業ができるのか。できぬのか。その点お伺いしたいと思います。

。衛生施設課長(吉田耕一君)先ほども申し上げましたように、市、現在、収集事情から或いはまた設備というふうな面から考えまして、通違反らない走行をできるかというや質問でござりますが、私はっきりとできるかは、断言できないというふうに考えております。なぜならば、いつときも早くトんかいを取っていくというふうな市民の要望によりまして、従来の走行を通違反にならないような線でできるだけ努めて参りたい。このように考えております。私たちがといったまゝではどうしても余分に乗せなければならぬ

い場面も今後起きるというふうに考えますので、そう
 した上で、反らない走行を実施するというところをお答えは、
 ちやうとできませんですが、違反反らない走行というふうに
 努力したい。こゝように考えるわけでございますが、
 なお、収集につきましてもできるだけ混雑いたします地
 域につきましても、大勢力で集めまして走行する段にお
 きましては、定員内、人員によりまして走行をする
 ような方法へと逐次持っていくたい。こゝように考えて
 おります。

○一〇番(辻田実君)今や、答弁でございしますと、保障
 ができないということとでございまして、これは少なくとも現
 在ちやうとした違反反でも摘発している中でもって、市
 が保障できないということになつては、納得がいかないと
 いうことでございします。こゝ点につきましても、討論の

中で十分さまでもらいたいと思ううであとにゆずりたいたいと思ひます。

もう一歩進めましてある事件が一つは、定員外乗車と彈転手の前方不注意心という二重過失によるところう傷害事件になつておるわけなんですけれども、どうしても無罪になるということとは考えられないわけでございます。その場合に彈転手に対して罰金なりいろいろな刑が執行された場合にその業務上の責任として市はそう罰金なりそういう刑に対して責任を取るのか。それとも單に彈転手の責任として処理するのか。その点についてお伺ひいたしたい。

衛生施設課長(吉田耕一君) 彈転手の責任か。その責任かというふうな質問だと思ひますが、決して私、彈転手の責任ではない。

私・課長としてああして走行・収集をやつていくより道がないという現段階でございまして、さうして命にかけてやういふこととございまして、私、責任であつて決して運転手の責任ではないというふうに考えるわけとございします。

一〇番(辻田実君)わかりました。このにつきましても討論の中で一たいと思ひますので、一た打ち切りたいと思ひます。

・三三番(高橋文治君)一般会計九款消防費についてお尋ねいたりたいと思ひます。

十五節工事請負費有蓋貯水池の工事請負費四十五万円計上してあります。これはどこか工事ですか。同時に十八節の備品購入費の四百万円計上してあります。国の消防車、市の指揮車に四百万円計上してございしますが、先だつての説明で国の消防車は豊房の手びき消防車

を購入されるということを知りておりまするが、この消防車
を購入する場合に地代でどう位お支払いになったか。また
全額市で負担されたか。その点をお尋ねしたいと存じます。
。消防署長(若田実君)お答えいたします。十五節の工事
請負費四十五万円。これは従来、大軒町の水村屋旅
館の中に野水槽がございまして、その野水槽が先般木
村屋旅館から郵政省の方に売却になったそうござい
まして、その条件といたしまして、あの野水槽をつぶす。
そういう条件で土地が売却になったそうございまして、あ
の野水槽はあの地区で非常に重要な野水槽でござい
まして、どうしてもあの辺に一個ほーいということござい
まして、地元の方でもこれにかわるべきものを作りたい。そうい
うような要望もございまして、水村屋旅館の裏に作る予
定でございます。

なお、第三点の備品の四百万でございますが、これは先般の説明いたしまして、たゞときに或いはいき届かなかつた点があったと思いますが、消防車二台、これは中型でございます。配置いたします場所は第三分団第八部南町、神明町、それから第八分団の二十三部、これは豊房の古茂口地区でございます。地え負担金は、それぞ、今まどと同様、半額地え寄付というふうになっております。なお、第八分団二十三部、古茂口の消防車につきまゝては、県費補助二十万がついております。

。三三番（高橋文治君）有蓋の貯水池をやることにつきまゝては、異議はございません。消防車がありましても、水がなければ、何にもなりませんので、これを構築することには、異議はございませんが、私は九重地区の市役所の出張所に貯水池がございます。

なお、九重小学校に貯水池がございます。この貯水池がい
つも数年前から水がひざ位にしかございません。貯水池
の用はたいておりません。これは署長さんは水があるなしを
調べていうつていますか、これをとも尋ねたいと存じます。
なお、消防車の方でございますが、これを二台買うのは結構
でございますが、カー・九重地区に館山に二十九年五月
合併いたしまして、その翌年と記憶しておりますが、消防団を
統合する等に九重や竹原に手びき消防車を配属された
のでございますが、この手びき消防車は那古で十数年使
つてすでに老朽化して使えないというものを修繕して、そ
うして九重に持ってきたわけでございますが、その後今日
に参りますに相当修繕して相当の金をかけてありま
すが、本当にもう使えない状態でございます。これも署
長さん知っていうつてやるかどうか知りませんが、実は去る

二十一日に九重小学校の運動会がありまして、そのときに九重の消防団が消防演習を実施したわけでございます。そうときにこの手びきポンプとマスコト、三輪車と四台で消防演習をやった。最後に放水試験をやりまして、ところがこの手引きポンプから水は出ない。そうときに父兄や有力の方が九重から議員が二人出ておって貯水池は水がない。消防車は水が出ない。こんなばかじきではない。つるーとげらいて、何とかならないかという非難を受けたわけなんです。そうときマスコト位は買ってもらいたいということであつたんですが、これについて署長さんの方はマスコトでも何でも買つて下さる中音ん思があるかどうか。今後うお考えをお伺いしたいと思ひます。

それから当初予算のときに望月議員から中質問があつたと思いますが、数回私は署長さんの方に申し上げて

ございますが、自警団の手当、わずかな手当でござい
ますが、自警団三千円か四千円でございしますが、こゝが打ち
切らなわけでございますが、昨承知通り農村の山間
部では現在田がふえましても、四部落で一つにかなないわけ
で、年末になりまして盗難とか防犯、徹夜で警戒して
いるわけでございます。

これに對しまして何とか從來あったわけかな、手当でございま
すからやっていただければ大へん幸いでございしますが、数回お
願ひして今回の更正予算に出ると思ひましてたがでており
ませんので改めてお尋ねするわけです。

なお私は館山市の消防委員の名をけがしてありますが、
今回のように消防車購入等相当費用がかかるに金
然消防委員会に話がない。提案されてしまったわけで
委員として全然知らない。本当は恥かしいわけございま

すが、こういう場合は消防委員の意見を聞く位のこと
はしてもいいかと思いますが、この点お考えを承り
たいであります。

・消防署長(岩田実君) 第一点、九重出張所の前の貯水槽、
九重小学校の構内の貯水槽が減水しておるといふことは、
私存しております。

ただああいう貯水槽が古くなりまして漏水した場合にな
かなか金を充金に止めることができないというふうに
いわれておりまして、事実数カ所、そういったような修理
をしたこともあるんですが、充金に漏水を止め
るということができなかった経験もあるわけでございます。
一かーながら、せつかくある貯水槽をそのままに放置し
てあるということは申し分けないわけでございます。これ
につきまゝでは早速地元の分団と連絡をいたしまして

最善の処置を取りたいと考えております。

なお第三点の手びきがソリンの件でございますが、現在市内に手びきがソリンが五台ございます。すべて三十年前のものでございまして、どれも完全になんか場合でも使えるというものはほとんどないのではないかというふうに考えております。

維持管理の状況によりましては、どうやら使えるのだというところもあるわけでございまして、運動会の際に水が出なかったということでございますが、消防署の方にも技術関係のものもあるわけでございしますから、連絡して下されば、参りまして修理できるものなら修理いたしまして、また業者依頼しなけばできないというような場合には、業者依頼して修理するという措置を取りたいと考えております。

なお、手ぶきガンリンというはすでに三十年を経過して
おりまして、こういうふうなものはある程度、機動力を
求めなければならぬ時代になっておりますので、順次
計画に基づいて更新していかねばならない。こうい
うふうに考えておる次第でございます。

第三点の委託料の点でございますが、これは先般の議
会するときにもやり説明したと思いますが、消防団統合の
際にどうしてもそのまま現在するということができない
ために自警団という名称で存置したわけでございしますが、
すでに十年経過したままです。消防署、消防団の消防
力も向上して参りまして、今回この委託料を削減し
たというふうなわけでございまして、まあ、やはり防犯的
な面も有効に働いておる団もあられるわけでございしますが、
ただ防犯の面ということから考えますと、やはり消防だけ

う面とは異なつた区別の観点から考えなくてはいけない
というふうにも考えらるるわけでございまして検討する
必要があるのではないかと。こういうふうを考える次第でござ
います。

。三三番(高橋文治君)委託料でございしますが、防犯ばかりでな
いです。防犯もやっておる中で今までわずかな金である中で
是非何とかいふを支給していただくように特に要望する
ものでございます。

。助役(小出武男君)ただ今、自警団の手当でございしますが、こ
は署長から申し上げたように消防力が充実強化しま
すれば、一応消防団の力においてカバーできるという見通し
で従来、なごりと申しますか、そういうものを整理して
いこうという方向でかつて、消防委員会、意見をとり
入れ、そして徐々に少なくしていこう。そういう方向をたど

つたうであります。が、今年には存目にしてあります。は、やはりその後におきましていろいろの情勢がありは—ないか—ということも若干予測—ま—たために存目に—てあり—ま—たわけでございます。

皆さん、意見を総合いたしますと、急激に廃止すること—は、非常に酷ではないか—という意見が出ております。で、今年度は予算には今まで計上—ません—が、できること—ならば、財源をみつめて若干の調整を—たい—というふうに考えております。

消防車購入など、場合に委員会をなぜ開か—た—のか—というところでござ—います。が、今年、消防二台につき—ては、非常に地え、確実な要望基礎があり—ま—て、消防委員会に諮問—かくても、市長の権限でできる—ということ、で、今回は省略—て、執行段階に移—たわけ—で

ございます。本来ならば、委員会を開いて市意見を伺うのが本来でございますが、今回は特例的に招集せず、に執行してまいらうで市了承願いたいと思います。

議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後三時二十分 休憩

午後三時四十五分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。
二番(石井正君) まず、教育研究所の問題ですが、前回から市答弁の中で、今年は都合が悪いから、館山市独自に研究所は作らない。その都合が悪いを市説明願いたい。

市は、独自の研究所の構想をどういう構想をとお考えであ

るが、その点について、

・教育長（工藤和平君）これは端的に申しますと戦政上り都合でございます。それと人件費がかさむということも特に考えらるゝ点でございます。構想といつた一まゝでは建物は目下建てらるゝません。で教育委員会事務局内に果からもちうております指導主事を中心にしてできれば校長級乃至教頭級の一、二名をこゝ仕事の専任に当たらせたい。

・一番（石井正君）はやくはせんが怪我 館山市独自の研究所ができるならば、館山市の教育に非常にプラスになるということも考えます。大いに構想に賛成するわけですが本年できかいとすると、今後が見通し、どうしようにも考えが、

・教育長（工藤和平君）いろいろお話しございまして教育の調査

研究並びに実践、あらゆる部面を持ちまゝて教育センター
の性格がございします。で私もこの望みを捨てずに今
後も市当局にお願いをするつもりでございします。

○一番（石井正君）はつきりしません。が経済的な問題で見通
しがはつきりつかないというように解釈しますが、なお努力
をいたしまして一日も早く設立をお願いしたいと要望いた
します。

次に保育園の問題についてお伺いしたいんですが、船形の
保育園が安田木工の大笑のために云々、修理費幾
らというふうなお話が出まゝだが、実際に安田木工の大笑
のために保育園がどう位、災害を受けただか、中説明願
いたいと思います。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）中説明いたします。が、
安田木工所の大笑のために保育園が受けまゝた破

損に対する修繕は井戸はらゐ、排水溝の修繕、雨どい、ガラスの破損、そういふものを含めまして三万五千円、修理費がわかつております。

二番（石井正君）聞くところによりますともう少しかつておるよりに聞いておるんですが、その問題は別としまして、まして火災のためにはっきりと損害を受けられたということになります。ば、当然補償さるべき問題で、安田木工から補償金をちょうだいしまして、妥当ではないかと考えますが、今までに補償金をいただいておりますか。

・福祉事務所長（鵜沢貫覚君）船形保育園につきましては、市町村共済会、火災保険に入っております。その方面から一万三千円ほど補償がございました。

安田木工所に対しては、ただ今、言いまして、補償の交渉はいたしませんで、た。

二番(石井正君)助役さんに伺いますが、ただ今この問題ですね。これは当然補償金にしようだいできるものと思ひますね。この点の御見解をお伺ひたい。今後、そういう交渉をする氣持があるか。

助役(小出武男君)大笑。場合、個人の場合も同様ですが、隣りの家が焼けたために被害を受けた場合の法的な補償ということとはちがつといふが如くと思ひます。

もちろんその人の貧富やあねにもよります。ところが、普通の場合ですと、失物制度が法的にあるわけであり、その中で個人がそれを補償しなければならぬ義務はいかにある。その点研究してございせんが、今回は、保育園でございまして、公衆的性格を持ってありますから、安田木工で補償してくれば、非常に結構ですが、できぬ場合はやはり市の方で、やていくという方が正しいので

はないか。かように考えます。

・一 番（石井正君）そうしますと、市の方から直接申し入れをしない。自主的にやってくれるば、ちようだいするということ音で味ですか。

・助役（小虫武男君）突然でございますので、そこまで考えておりません。今のところ、市からは申し出てございません。補償も非常に少ないので、火災う人の被害を考えまして、一ツイ災難でありますので、わずかうもうでいたらし、市の建物は市でやってくらうという基本的な考えを、現在持っております。

・一 番（石井正君）了解しました。なお、前、視察のときに現場を見ましたんですが、所長でいたか、主任でいたか、木工機械の音で教育に支障がある。困るというお話がありました。たがよく考えて見ますと、保育

園の方があとかうできたんですから、その点も考えられますが、一応大笑で焼けまゝで、新築許可という場合に建築法からいきまゝで、すぐ接合してそういう機械の音の激しい建物を作るという点につきまゝで、これはいいものか、こういう研究をされたか、どうか、お伺いしたいと思います。福祉事務所長（鶴沢寛君）ただ今、お話の保育園の方があとかうできたという状態もありますので、この点につきまゝでは、安田木工に防音に対する措置についての交渉してございせん。

○二番（石井正君）それでは次に北条小学校、特殊教育の一万五千円、報償金が出ておりますが、今まで出ておりませんが、どういう意味で出たのか。

同様に北条小学校、全国研究会の資料及び印刷代に五万円計上されておりますけれども、これは全国公開

をすためういわゆる補助金なり或いはその他費
用を委員会外でも結構です。どう位研究会に付して補
助が出ておるか。説明願いたい。

・庶務課長(干場伊右エ門君)も答へたいです。

北条小学校の特殊教育研究会の關係の報償金で
ございますが、こゝは果し補助金が一万円あります。報
償費一万五千元は大体講師謝礼でございます。

それより、その下の需用費一万円、こゝは印刷代を充てま
して二万五千元を一定考へたうでございす。

第二点、全国研究会の關係ですが、こゝに五万円計上
したほかに教育委員会と一まゝでは、手持ちの研究關係
の費用十万円を予定してあります。

・一番(石井正君)最初、客弁が不明瞭なんです。私に聞
いておるうは、報償金ですから、特殊教育の研究をや

っているのは、この学校ばかりでなく、何校もあるんですが、ただ今の答弁では説明が足りないんですけれども、もういつかはつきりとも願いたいと思います。

それから全国公開にあたっては費用ですが、ほかの項からはございませんね。とにかく学習内容の公開研究をやるということとはただならぬことでありまして、非常な研究の推進をしてる学校であるように私も認識しております。

それで私がいいたいのは、館山市として考え方が浅いのではないかと非常に少ないといいたいです。

とにかく市の費用が少なければ、子供たちが廃品回収とか映画の前売券を売るとか、この費用が必ず集めらる。それで足りないとした特殊寄付という形で集められて何とかその研究会をすべいたいというふうな

形になつてくるわけです。そこで P・T・A の需用費の削減をうたひてありますけれども、こういうことをやるために P・T・A の特別な会費が徴収が明らかにございまして、市として全国で公開をすれば、三千人、四千人、館山市に宿泊いたしまして、市のために一つ大きな仕事になるわけでもう少い内容を検討いたしまして、できるだけの補助金を出してやっていただきたい。執行部にも願ひたい。まして質問も打ち切りたいと思ひます。

・三二番(三沢 節 君) 二点について、市質問いたらないと思ひます。

第一点は、観光の十八節、備品購入費のうち三十万円を更正されております。二の内容が拡声機と双眼鏡となつておりますが、これはもう三十万の必要を認め

なくなつたが、こゝがまず第一点。

・商工観光課長（小沢正治君）も答へ申し上げます。
観光費の備品購入費三十万円を更正でなくて当初予算四十万のうち拡声機分を七万円と双眼鏡の三万円の十万円を減額いたしまして三十万になつた。拡声機は私ともう計画では一個七万円程度をもう取りつけたいというふうに考えまして四個の計画をいれてございますが、競争入れの結果非常に安く入りまして私ともう考えておつたより若干小型で済むということでも七万円程度、双眼鏡の三万円は調査課の方に館山湾に入ってくる船の監視について双眼鏡があるということでもそれを夏う二カ月間位は借りらるだろうということでもこれを節減いたしましてこれを借りて済ましてわけでございます。

・三三番(三沢節君)拡声機う件で伝達事項がまじまじになるように聞いておりますが、将来一本化して全部の地域に流れるというふうな方向にしたいと言明されておりますが、そういう計画がなされておりますか。

・商工観光課長(小沢正治君)昨年まで拡声機が北条の休憩所一カ所だろうと思うわけでございますが、本年各休憩所ごとにそれぞれ設ける計画で実施したわけでございますが、さらに増加して参ります。

それが一カ所へ海岸線に放送塔を並べてセンター的なものを置きまして一斉に流れるという来年度はそういう構想で実施に移していきたい。こういうふうに思っております。

・三三番(三沢節君)そう是非お願いいたしたいと考えて了解いたしました。

次に社会教育課長さんにお尋ねいたいたいです。図書館費に三十万追加になっておりますが、昨年度の当初予算に図書館の修理が一応計画になっておったようですが、これが削られた。その後、応急修理なり、やられておりますかどうか。

・社会教育課長(利田正男君)お答えいたします。三月、市会で市長さんからも話がございまして、百万円図書館の建物、購入費をまけたいので、二、三百万円かけて修理をしたいという中、答弁でございまして、それは、社会教育課で考え一つで処理すべき問題でなくて、市、首脳部においてお考え願わなければならぬ問題というふうに考えて、そういう形で進めております。とりあえず、雨漏りの箇所が落ちそうで危険でございまして、危険を防いただけでございまして。

・三三番（三沢節君）それでは市長さんにも尋ねたいと思います。が、本年度当初予算に対してまして是非とも図書館と大々的な修理をしてほしいという私の要望に対して、市長さんは千葉銀行の払い込み金を何とか操作して是非ともこの工事はやりたい。かように言明があったと記憶しておりますが、本年度中に是非ともやっているいただきたいと思うんですが、どういうお考えでありますか。その点も尋ねたいと思います。

・市長（本間謙君）お説が通り、あそこは非常に痛んでおりまして、~~非常に~~至急に修繕をやらなければいけないわけですが、よく調べまして早急にやりたいと思います。

・三三番（三沢節君）非常に利用価値も多いところでございます。図書館もだんだん完備されておりますので、安心してあつ中で勉強できるように要望いたしまして、賛

問を打ち切りたいと思います。

。三番(中村省吾君)私、午前中質問しました点につきまして改めて再質問いたいたいと思います。よろしくうござい
ますか……

午前中いろいろと市質問申し上げまして、市説明がな
かったわけですが、資料もそろったのではなにかと思われます
ので、私がいろいろ申し上げました点について、詳細に明
確に市答弁願いたいと思います。

。教育長(工藤和平君)道徳研究推進助成補助金の問題
をめぐりまして、私、答弁不備のために午前中からまこ
とに長い時間、迷惑をかけたことをおわび申し上げます。
ただ今、重ねて中村議員から、その要点をいうことでござ
いますので、五項目にわたって申し上げたいと思います。

第一点は、館山市教育委員会として今日の小中学校

で道徳教育、これは児童生徒の発達段階に応じた生活指導なり、或いは教科科指導を通じ、てういわけ、道徳教育の推進は必要不可欠からざるものという信念を持っております。

二番目、これを具現するため、各学校々各実態に応じた教育方針を学校ごとに樹立いたし、まいて、これが具現に努めてある次第でございます。

第三点、館山市教育水準、これを高めるために、館山市自体において教取員への研修に重点を置くという観点から、本年度特に二方面に増額をお願いいたわけでございますが、研修というものは、一つは限られたところで研修をするよりも、むしろ、より大きなサークルにおいて、研修を積むことが理想であろうかと思っております。かような観点から、郡市一体の研修態勢を確立

することが必要であるというふうに私は考えております。
従いまして現在までのいわゆる地教委の費用が、この面
ほとんど用いられないというふうなことがありますので、郡市
一体の研修費を分担するというのは、当然これは我々の
義務である。このように考えるわけでございます。
なむ、たびたび質問のごさいました。需要内容はどう
かという点も質問でございます。これは先ほど個
人的にも申し上げました。この席において重ねて申し
上げたいと思います。

研修事業費としては大きく分けまして、道德教育推
進費と研究助成費。その他ということにかかれておりま
すが、第一点、道德教育推進費の中には、研究会資料
作成費、研究校の補助費、これを合わせまして八万二
千円。

第二点の研究助成費の中には、研究会費、調査研究費、研究奨励費、これを含めまして、四万円、その他といひまゝして、図書費、四万円、会議費六千円、予備費二千五百円、一めまして十三万四千五百円、こういう費用が計上されて、これを各郡市の学校の子供の数にすゝまして、一人四円、こういう算定で三万のようになさいところは三千九百円でございしますが、館山市は、一万円を越してありますので三万円、七月十六日、安房郡市地方連絡協議会、名をもって館山市の教育長宛に参つたわけでございます。

この点、それ以上、ことは私申し上げることはできませんが、この事情を十分、御案いただきまして、なにとぞお認めいただきますように切にお願ひ申し上げます。

三三番(中村省吾君) まず一点、最初に申し上げたいことは、今

中答弁のございまいなようなことがなぜ午前中答弁できなかつたかということも非常に遺憾に思います。当然このことが道徳教育推進費として組むからには、何によつてこのものを組むのだという。そういうものをよく調査しないでこのことが計上されておるということが言えると思います。そういうことはともかくとしてただ今、中説明があった。その内容におきまして教育委員会はそうした中で、今、道徳教育というものが、連絡協議会の中で、からは、館山市の道徳教育というものが、いかなる形において、このことが研究され、そうして、館山市の道徳教育に処していか、その見通しについて、中答弁願います。教育長(工藤和平君)大変にむづかしい中質問でございませうが、教育の見通しということとは、中案内のように一朝一夕ではわからないのが教育でございまして、その結果を

私が今即座に断定して市役所事申し上げることとは、甚だ困難でございますけれども午前中からお話がありまして如く、これを教える教師側にもこれを受ける子供側にも問題の多い事柄でございますので、それだけにこれにこれだけの分担金を出していただけますことによつて、市が熱意、精神的な支援というもので、この効果が上るものと確信しております。

・二三番(中村省吾君)問題をかえます。そうしますと私はつきり申し上げます。

道徳教育というものは必要だと思っている。まず教育長も認識願いたい。私自身、そのことについては何も申し上げていないわけでございます。そこで今おっしゃるに通うに陣路協議会の中に各市町村から補助金をもって、それで道徳教育を推進する。このことが午前中申

ー上げまーたけれども、千葉県におきまーては、小中研と
称する一つの協議会、これも類似のものだと思っております。
そうすると、安房地区におきまーて、その連絡協議会、この
必要性、そのことを館山市教育委員会は、どういうふう
に把握しているかということ、今、最初の市答弁の中に、館山
市としては、郡市一体云々の方が効果があるとか、各学
校におきまーては、一貫した一つの計画を立てて、道徳教
育を実施している。そういうことをおっーらいた。ところ
が、今あなたが、そうおっーするけれども、館山市の各学校を
見まーて、一貫した計画の中で道徳教育が実施されて
いるかどうか、私は聞きたいと思う。

例えば推進校として指定された館山ブロックの中で、那
一中においても、今までかつてこの推進校と指定されても
それに値する活動は、何らされておらない。また、そのことが、研

究すらぎれておらない。そういう推進校に指定された学校です。す。そういう実態だ。そういう中で今後安房郡市のそういう一体となったものの中、成果が生まれるとある。たはあつてやるけれども、だから私が再三申し上げるように、その中から生まれるものが、館山市の道徳教育について、これをやっただめにどうなってくるだろうという細かいことをいうのではなく、技術的の面でその連絡協議会がどういう形でこの研究をなさっていくのか、また指導するものは、何によって指導するのかが、指導するものは、どんなのか。そういうことを、説明願いたいということをお願いしておる。

・教育長（工藤和平君）今具体的な面として、那古、一中を上げらる。また、特に一中につきましても、安房児童学園の問題、見が相当入っているわけですが、一かも、又抗期であり、肉体的には成人に近いものを相当かかえて日

夜、そういうものに取り組んで悩んでおるわけでございますが、
いわゆる「くさいものにな」でなく、赤裸々にそれを表して
ケースバイケースで解決していく。非常に決ぐまーい研究
をしております。その計画もございます。従いまーて
こういう意味において私は申し上げたわけでございます。
なお、運用ということも申さねまーたが、予算額は各学校
に公正・妥当に配分されると思ひます。その配分につき
まーては、いんさもつとも有効・適切に活用すべきもので
あり、またさいるというように信じていわけでございます。
で、私は今後のこうした活動については大きな期待を
持っているわけでございます。

・二三番（中村省吾君）一中のお話がおまーたが、そういうこ
とはそう通りでございます。

それから各学校におきまーても、道徳教育を実施して

なるわけでございます。従ってそれなり成果はよつて
 いる。私が申し上げるうは安房出張所が指導してそ
 うして各市町村教育委員会から補助金を出した中
 で館山市の道徳の実態と具体的に各校を調べた場
 合にそういう形の中で道徳教育というものは表面調
 一時間取つてある。副読本等も文部省の認定そ
 ういうものを使つてはいる。一か一ながら実態は各々
 生方が独自の道徳教育ということと非常に先生
 方が悩んだ。そのことによつて成果が上つてゐるでござ
 います。これが実態だろうと思ひます。

中においても、今教育長が言われたその成果はこういう機
 関によつてこういうものについて成果ではないんです。
 これはやはり先生方が非常に苦勞して道徳教育が
 かくあるべきだという熱心で教育された成果が今出て

ある。

専断な例で申し上げますけれども、かつて千倉中学が皆
さんや存じのうらうに非行化も多かった。学力も低下
してゐる。入学率も非常に低かった。千倉中学が
非行少年もいない。安房郡一に入学率もなつてきた。
有名無実校になつてきた。

その成果を上げたのは、確かに道徳教育だ。――その
道徳教育というものは先生方がどうしたら、この問題は
なおせるのだ。日夜真剣に考へて、その中から千倉中学
独自の千倉中学の実態の中でかくからねばならぬ
ということと、熱心に教育したからこそ、今日の成果が出
たと思ふ。

それをこういった一つがきまつた形の中から出して、その成果
を待つということではございません。私はそういうことをい

いたし。

そこで館山市の道徳教育というものがどういう水準にあるのか。今までのどの程度調べてあるか。もこと具体的に申し上げますならば、今までの教育課程の中で道徳教育というものに対する観念がどうあるか、現実においてどうなつてあるか。それを道徳教育の面から見ると、そうして一つの資料というものがあつたかどうかが、現実の姿をどこにおさえてあるか、その点詳細にや説明願います。

・教育長(工藤和平君)お話を教育の水準につきまゝては、私からいうと、自慢になるかもしれませんが、市当局議員の方さん方々協賛によりましてさらに現場の教員の非常、研修意欲によりまして果下でも上り部に位していると自負しております。

お話し道徳教育の水準につきまして、これは他教科のように何点だ、優だとか良だとか、判定はきわめて困難でございまして、従いまして、いかなる水準にあるか、いかなる点数を持っておるかということについては、お答えできませんけれども、必ずしも劣っていない。劣っていないけれども、やはり根本的に大事な問題でありますので、普通教科あるいはそれ以上にこれを助成せねばならぬ。こういう観点から、このような無理なお願いをしておるわけでございます。

・三番（中村省吾君）抽象的な討論では、何にもなりません。せんがもう一点申し上げて見たいんですが、こういうように道徳教育という美名のもとに、一つは補助金政策というものが全国なされております。

そつ一つ大きな欠陥が、市町村承知のように、受入果、受入援

東・波卓、ああいうところになきまゝで、静岡もそうだった
 と思います。が、愛媛等々、愛媛教連と呼ぶ組織の中で今
 と同じような形が、こういうものを組織した。

愛媛におきまして、全国学力テストは、全国第二位に
 上った。一か一ながら本来の道徳というものが、見ていき
 ますと、非行化が第三位に上ってしまつた。

この実態をどうするか、いわゆる私は、そのことを憂慮し
 するわけなんです。こういう本場に現場の取組、方々
 ちが真剣に考えて、その中に補助をするならば、生
 また金になる。ところが出張所がすることだから、説明
 できない。そういうところに金をつぎ込んで果たしてあ
 りな方が教育委員会が真剣に考えている成果が得ら
 れるかどうか。現実、にそういうような面に直面している。
 そういうようなところ、この金はわずかに四万一千円であらう。

うけれども、その金が出て生きていくところの教育
委員会の説明等が手前中のように答弁がでない
ということでは何らなされてないということをお願い
真剣にそのものを討論して行くならば、昨即座に答
えが出てくる。従ってあなた方が今答弁した中でもこの
道徳教育の育成ということに果してどういう形に出
てくるかという答えができるか。もう少しその点を館
山市の教育行政ということを真剣に考えた上で果
たしてこれが妥当であるかどうかというやり答弁が願
いたい。私の納得するいくように具体的にやり説明願いた
い。

。教育長（工藤和平君）どうも長時間見当はずれに片期
待にそえないことはきこいに遺憾でございますが、四万
という金をそのもうずばり使った方がいいかというよ

うで解釈いたうでございすが、私先ほど申し上げましたように道德教育とは申しましたが、生活指導、学習指導を通じて道德教育、こういうことを申したはずでございます。従いまして、もっと平たく言えば、教科金般を通じて道德教育、かような意味合いにおきまして、単に道德と限定せずに広い範囲に四万円でございすけれども、使った方が効果的である。かように考へております。

なお先生方々、悩やそいが尊い、だ、お説々通りでございす。幾らかでも物的な援助を与えてます、す、これを援助したい、的はずいでございすか、こい以上私には答弁できません。

。ニ三番(中村省吾君) とういうところに出すよりも、個々々悩やを持てゐる先生方々、そいを救うこと、方がい

いというふうに取りやる。今、答弁からいいますと、そのように取る。

悩んでおるけれども、金がないからできない。そういうところに使えば、確かにいい。そういうことをいつておる。そのことがわかれば、こういうものをすべきではない。

館山市として、やはり、安房地協議会に出すよりも、むしろ館山市独自の私も、道徳だけをいつておるのではない。道徳というものは、数学の時間の中にも、道徳教育というものはある。音楽の中にもある。週一時間、特定されたその時間だけが道徳の時間ではない。グループ活動の中にも道徳教育はある。そのような道徳教育というものは、分野が非常に広い。もう、スクーというならば、一中う状態と、西岬う状態と、北条う状態と、みな違う。

ただ、一つ、徳目として、小学校三十六、中学校二十一項

目、二つを週一時間の中で機械的にやらせようというもので、果たして道徳教育というものが完成できるのかどうか。そうではなくて道徳というものは、先ほど千倉中学のことをいいたが、これがいい例だ。本当にどこに重点を置いてこの道徳教育を助成したらいいのか。

そこに真の道徳教育がある。そのことを考えるならば、あなたがおっしゃるようになっていた全体的なものの中でどのようなかともわからない。どう指導されてくるかわからない。そういうふうな解釈で指導されてくるかわからない。そういうところに出ても、館山市の教育委員会としてもっと研究して館山市の小中学校はかくあるべきだ、というものに直接お使いになった方がより有効ではないかということをお申し上げておる。もう一回お見解を承りたい。

。教育長（工藤和平君）私はかような見解でございます。

あなたのおっしゃるように具体的にこの学校にいつてやるのびいという考え方もあろうかと思ひますが私が申し上げますように各教科各生活指導を一通トてでございますので、そう一方がむしろ効果的である。かように解釈しております。

。二三番（中村省吾君）もう少しはつきり申し上げますと、この指導課にいく十三万二千五百円ですか。この金でもって安房郡下の館山市を含めてそればかりの金であなだがおっしゃるように各学校をどうやって指導するかということですが、各教科を一通トて道徳教育をなさるとおっしゃった。それ通りだ。私もいつてゐる。正しいとおっしゃった。

そこまであなたがりかてゐるならば、その方向で指導しない。

かということなんだ。もううべんお答え願います。

・教育長（工藤和平君）同トことを繰り返して申し上げて恐縮でございすが、安房郡市にこればかりの金で果たして徹底できるかとおっしゃる。私もこれは理想ではないと思います。――カー。いろいろ町村財政その他を考えますときに、えー、金をもっとも有効にもっとも適切に使用することによってそれだけないよりは、効果が上るもーと思ひますので、理想にはほど遠いとしても、これでいろいろ研究することによって、成果も上る。熱心な現場の教員によつては期待できるといふふうに信じております。

・二三番（中村省吾君）同トことを言いますが、私は同トことを申さないことによりまして、あなたも答弁の中で、館山市の個々の取員の方たちが、苦勞なさつてやつてゐる。その面にこの金を使つていく予算があるならば、確かにそれは成果があ

るということをおつゝやった。そうすると、そこまでわかつてお
りながら、なぜ教育委員会は、館山市の中にそれを出
さないで、この連絡協議会に出す必要があるのか。そこまで
館山市を無視してそこに出す必要があるのか。そこまでな
ぜ出さなければならぬ理由があるのか。それをお聞きい
たします。

。教育長（工藤和平君）館山市は教員、研修費、研究費
に大幅に増額をしております。

この中に館山市の独自の道徳教育、生活指導の面が
入っているわけでございます。

。二三番（中村省吾君）私が今質問したのは、別に予算がな
いかということをお聞いただけではない。

そういうことでなく、館山市の中に今おつゝやったようなことが
あるけれども、今改めてここに追加予算として提案

した。追加予算まで組む。そのことが館山市に直接お
す方がいということがわかっておりながら、なぜそれを
追加予算でどこにどうはつきり道もわからぬ指導
課の方にもっていくのか。そのことを私答弁願った。

あなたは確かに館山市の教育に直接使えば利益が
あるとおっしゃった。それをあえておいておる。その方がい
いと判断になっておると思う。そのことをとくとり説明
願いたい。

。教育長（工藤和平君）重ねて申し上げます。このことは先
ほど第五項の私の答弁の中ですでに申し上げまし
たが、館山市自体でやることももちろん必要でござい
ます。研修そのものも、性格から申し上げて、是非大き
なサークルによって切磋琢磨をする。こういう面がきわ
めて肝要でございます。かような意味においてこの

提案をいたしました。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後 四時 四十二分

休憩

午後 五時

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

教育長(工藤和平君)先ほどから中村議員よりいろいろと予算
問うございまして、た点につきまして補足的に二点答弁申し
上げます。

その第一点は館山市に独自予算を組んだ方がいいん
ではないかということですが、現在館山市が四つ
のブロック、そういうところに教育会、或いは教育振興会があ
りまして、それに属してある町村の教育委員会から金を

おいて各教科の研修調査に充てているわけでございます。館山市に関する限りその必要性を痛感いたしまして、今年度組織は作りまいたが予算化はしておりません。従いまして質問の趣旨は十分わかりますので、道德教育を含めて館山市教育会なるものに予算計上の将来の計画を—たい考えでございます。

第二点のお話でございます。た道德教育に伴う弊害或いは心配ごと、こういうものに関しましては現在、館山市においては考えられないわけでございますけれども、—そのようなきざりがあった場合には我々の責任において善処する考えでございます。

二三番(中村省吾君)以上のことで了解いたしまして。

一六番(関武夫君)民生費と総務費についてお尋ねいたしたいと思っております。

第三款の民生費の上須賀、古茂口の青年館の工事請負費についてであります。こういった青年館ができたことは、青少年の健全育成の上に非常に結構なことだと思えます。

つまりこれは、この建物と今後、問題についてお尋ねしたいと思えます。

当然、市有財産でございますが、今後これはどの所管で管理することになるのか、管理はどんなようにやるのか、使用料を取るのか、取らないのか、将来、修繕が必要になった場合の修繕費はどういうふうに出していいのか、こういう点をお尋ねしたいと思えます。

。福祉事務所長（鶴沢貫寛君）青年館の管理、運営の問題でございますが、今年度は二つの施設を設置するわけでございますが、将来、これが何カ所かに設置

さへることが予想されます。そうしますと、これを市有財産だからといって金額市費でまかなうということでは相当の財政上無理が予想されますので、この運営については、地元に委託して運営をまかせるようにしたいと今考えております。

果し補助金も出ますので、将来の修繕等につきましてもやはり市で当然修繕すべき建物ではございますが、そういうことが無理なようにも考えられますので、そういう点につきましても、地元と契約を結びまして、善処していきたいというふうに考えております。

○六番(関武夫君) ちやうと答弁が的確で、欠くようないきがあるんですが、当局まだ研究が不十分なようで、すから質問を打ち切りますが、公有財産の管理ということは非常にやりにくい点が出てくると思いますので、よく

検討されて遺憾のないようにお願いしたいと思います。
次に総務費でございますが、事務改善推進費について
お尋ねいたします。

今回七十五万円の補正額が計上されていますが、アンド方式
によりますと、まだ今後機械を入れているかなければなら
ないのではないかという予測するわけでございます。現在執
行部でも考えになっておる一応完成された事務改善
の組織及び姿においては、あとどう位機械器具、備品
等を購入すればいいか、そういう見通しについてお伺い
したいと思います。それと相当金額の備品、器具を
購入しておるわけですが、全部一般財源から出ている
わけですか。これは画期的なことをやるわけなんですから、
国や県がこれに対して奨励的な補助をしないのか、
そういう点をお尋ねしたいと思います。

・秘書課長（小倉澄男君）も答えいたります。現在まで
で事務改善に使用いたります。経費の総額を申し
上げますと、三十八年度、三十九年度におきまして予
算として計上された額は約一千五百万。そのうち施行
いたります金額が、千百万円でございます。あと残って
あります四百万円程度。費用は、これはただいま鋭
意作戦中でありまして、エスターという機械によっていた
ります住民に対する周知業務、選挙人名簿、納税
告知書納入書等を委託する費用でございます。

なお、今後より位う機械を購入するかどうかという方針
についてはお尋ねでございますが、実は本年度当初
におきましてはエスターという機械購入を一時中止
いたしましてこれを委託というような形式でアンドカ
ードに資料を提出いたしまして、それによりまして、

すべて業務を実施してゐるやうでありまして、こういう形にいたっておりますが、将来はエスターを購入して事務改善の成果を期待したいという考えであります。それからこの費用に対する補助金という点でございますが、現在のところ、国、県等を調査いたしまして、たところ、補助というものはくたさずしてありません。

一、わがながら聞くところによりますと、自治省等におきましても、住民台帳の合理化審議会というものを作りまして、いわゆる市町村の行政事務の改善というように、なことにつきまゝで諮問機関を作りまして、鋭意研究に乗り出しておるやうでございますが、将来につきまゝではある程度の補助が望めるやうではないかという希望を持っておりますが、現在の段階におきまゝでは、補助金はないということでございます。

一六番(関武大君)事務改善は、市長が英断をもって断行されたわけで、事務の合理化ということについては、非常に結構だと思ひますが、ただ事務改善を推進していく上において、これがあつても主眼であるということをお忘れのないようにしていただきたいと思います。行政効果を上げるための事務改善でありますので、事務を改善したために行政効果が阻害されるようなことがあつては困るわけであります。

この点について十分注意をされて進んでいただきたいと思います。思ひます。それと、事務改善に関連性がありますので、市民課長さんにお尋ねしたいと思ひます。

今秘書課長の言われまうように今後選挙人名簿とかいろいろの面がすべて住民登録をもとにして行なわれることになると思ひます。そうしますと住民登録が

完全無欠であるようにするが、このアンロード方式の基本的なてまえであろうと思います。

それに対して市民課長さん、どうもういてこれを完全無欠を期するように努めておられるかお伺いしたいと思ひます。

市民課長(羽山房雄君)お答えいたします。お説のとおり住民登録がすべて基本台帳になることは、今おつしやうした通りでございますが、現在、館山市は住民移動届ですか、こちらに入ってきた或いは出ていく際に、法定では、二週間以内に届け出るというたてまえになつておりますが、この二週間、期限内に移動届をしない方が相当数ございますが、この点については、どう自治体でも非常に悩んでおります。

住民に対して過料的な罰則、そういうものも方法

と一ではありますすが、これは、当市の場合、こういう方法を理事者の方で取らない方が望ましいという線を持っておりますので十分その点は、窓口にこらゆる方を通じて或いは広報、その他で住民の知識を向上していきたい。こういうように考えておりますが、それに対する具体的な方法というものは別段、それ以外には持っておりません。

一六番(関武夫君)住民が転入、転出した場合、届け出るのが義務でございますが、一か一住民の中には、それを実行しない人が相当数ある。これに対して過料というようなことで、それを実行させようとは考えないという市答弁、まことに結構でございます。是非、そういう考えで進んでいただきたいと思ひます。事務改善に関係してある方たちの中で、今申した住

民登録を届けないから市民ではないのだというように
考え方が人もあるとしますと非常に間諱いで
ございます。届けない人があつたらそれをごちうから
勘定して今後真剣に市研究願いたいと思ひます。
次に助役さんにお尋ねしたいと思ひますが、今回、補正
予算で各款項に旅費、補正額が相当出ております。
こゝはどういう事情で、四月以後一般の支出の規
制と申しますか。だが、規制されてゐるのかということと
市説明願いたいと思ひます。

昭和三十八年度までは、総務課長がかかり、悪くも
になつて大事に支出してゐたが、事務改善後はその
係が不鮮明のようでございます。その点を承り
たいと思ひます。

助役（小出武男君）も答へたいとします。

旅費が追加が多いというところでございますが、これにつきましては、本年当初予算を編成するときに課長会議をいたしまして経費節減の趣旨から旅費を一応前年度を踏襲いたしまして金額は前年度同様にしてわけでございます。しかし、それと相反して現実には旅費の定額が値上がりしているわけでございます。

そこに大きな食の増いがあつたわけでございますが、そういうことが九月に相当足りなくなつたという大きな原因でございします。

それと支出の規制でございしますが、事務改善をいましてから旅費なら旅費にしても各課に配当してあるものがたてきえてございますので、各課は経費の範囲において年間の出張計画をたてるという基本方針で立てました。ところが、点が、指摘が漏れが不十分で

あったことを正直に認めざるを得ないであります。

今出張します際には方針としましては、例えば果片に二人いくということがまま見受けられます。こういう点につきましても特に強化を以ていきたいと考えます。

事務改善の方式ですと秘書課から合議を受けまして私の方に向わってくるわけですが、私のところでは非常に小さいカードで非常に繁雑でございます。目こぼしがあるやうで財政課を経由するということにいたしまして財政課で一定残額予算を調べながら出張の承認をしていく。こういう式にさせておるのでございますが、この点中指摘通り、そういう面が若干以前より軽くなった点がございます。今後十分気をつけまして旅費の追加については最悪の場合以外は追加しない。今回はやむを得ず追加をお願いしたわけでございます。

一六番(関武夫君)大体わかりました。そうしますと、旅費は今回追加で大体本年度内は何とかまにあうという見込みでおおしになったと了解してよろしくございませうか。

助役(小出武男君)ニハは旅費、その他費目もそうでござい
ますが、今提案いたしますものは、第三、四半期というもの
を重点に置いて一応おしなわけでございます。第四、四
半期にウリますと、特定の仕事が出てきますが、そのとき
の市会に上程するという形式を取りたいので、金額でさ
るかどうかということはちやうと足りないのではないかといふこ
とは、足額を非常に上げましたので、普通つけば倍まで
はいかないにしても七八割ふえなければならぬ金額が
必要請さるるのを前年同様にしてたということに大きな
食い違いが出てきておる。この点をこの程度によつてや

ろうとーたんですが、今申しますように若干手落ちがございましてオーバーした。もちろん無理に出ているわけではございませんで、必要な経費と思ひまして之を得ないものとしてお願いしたわけでございます。

・一六番(関武夫君)助役さん、若し市会弁ぶりは大体想像できますが、できるだけ支出を有効に支出するうちに今後とも市努力願いたいと思います。

・二五番(荻生田七郎君)簡章に市質問ーたいんですが、衛生費の第二項清掃費、第三目ー尿処理費の中の一節「需用費」電気料百四十万計上されておる。燃料が三十一万二千円減額されておるうでございしますが、これはクー電気が多過ぎる。また大幅に燃料費の見込み違ひのようでありますが、こゝろ大幅な食い違ひというものは、当初予算においてずさんという失れですけれど、

ども、そう一点があつたのではないかと思つてですが、その点、市説明を願いたいと思つてます。

。衛生施設課長（吉田耕一君）お答へ申し上げます。

最初、電気料、件でございしますが、当初につきまゝでは、算出、基礎、誤り等によりまして不足額を生じたという点、もう一つ、開墾地におきますところのコンプレッサーがございします。その配電関係の電気料というところが考え違ひで落ちておつたという関係が、おまな理由でございします。

燃料費につきまゝで、減額三十万余でございしますが、これは当初におきましてある程度完全繰越をするという考えから参りまして、燃料費を計上したわけでございます。

市案内、ように制限投入をしておるといふような関係

から今後が見通しとしてでもある程度は減額を見込める
というふうな考え方で今回三十万余減額したわけござ
います。

・三五番(荻生田七郎君)わかりました。計画違い、見込み違い
もありました。うけいどもソロバン違いでこういうことをされ
るというよりは私どもには受け取れないんですが、この点、
深く追及はいたしません。十分注意したまわりたいと思
います。

・二三番(君塚喜三君)九款の消防費、先ほど申し上げた
関連をいたすわけでありましたが、木村屋の裏に有益貯
水槽を建設するという事なんです。この工事請負費
四十五万というものでござります。先ほど休憩時間に署
長から話を承わったんですが、これには国庫補助がついて
ないということござります。一昨年あたりまではこれがつ

いておたように気遣ってありますが、去年でいたか、消防組織法がかわって、各県消防学校ですか、これを必ず設置しなければならぬということから非常にその方でも予算がいくことになるっていったということでも補助が非常に規制されてきたのだということも聞いたことがあつてあります。かようなことから当初予算にも有蓋野水槽一個あるわけでございますが、こういうのもうにはついておるが、今度の補正もそのついてはついてないそうしますとついてないものについて、地元負担が半分だということになると、地元負担のアンバランスがあることになるが、こゝを見通していつまでこのような状態にいくのか、その点についてお伺いしたいと思います。

消防署長(若田実君) 先ほど御説明申し上げました木村屋の裏の野水槽の件でございますが、これは補

助金はついております。消防車或いは貯水槽、こういったものにつきましては消防強化促進法に基きまして国が補助をするわけでございますが、各自治体から補助金の申請をいたしても申請いたしても全部に對しまして補助金を出すということは国々財政上許さないわけでございまして本年度は消防署の購入いたします消防車とそれから消防署で使用する無線器二基、それから消防施設といたしまして当初予算に計上いたしまして有蓋貯水槽これは館山地区に建設工事中でございしますが、貯水槽一個この三点について国から補助があるわけでございまして我々の希望といたしましては全部の消防施設に對して国が補助を出してくればいいわけでございますが、国が総額が七億ということだそうでございまして全部はつか

ないわけでございます。

なお、補助のついてもるものと補助のつかないものと、地元負担金が不均衡になるのではないかというお説でございますが、補助のあるなしにかかわらず、すべて必要経費の二分之一を地元で寄付していただく。こゝが、現在たてえでございまして、ですから補助がついたから地元の負担が軽い。或いは補助がつかないから地元の負担が重いということは、ないわけでございます。

・二四番(島野茂樹郎君)簡単に質問申し上げます。

民生費、忠霊塔の管理費委託費ですが、こゝは説明の中で「市で管理すべきである」というふうな説明がありましたが、こゝをなぜ市で管理しなければならぬか、法的根拠といえますか、理由をお答えいただきたいということが一つ。

それから児童福祉施設費、青年館のことですが、これは
閣議員からも質問がありまして、たが来年度以降の計
画があるのかないのかということ。さらに希望する部落に
は、全部建ててもらえるのかということが一つ。

教育費の中で高等学校費に対する関係の問題です
けれども、渠立移管の推進の状況、これが今どうなつて
いるかということ。それからその後、推進のよううに推んで
あるか、簡単に結構です。お答えいただきたいと思いま
す。

福祉事務所長（鶴沢貫寛君）市説明いたします。
忠霊塔を市で管理するという根拠でございますが、これは
市で遺族会から寄付をもらひまして、市が建設したと
いうことで、市が管理する考えです。

それから青年館の今後、計画でございますが、これは

やはり五カ年計画でこの青年館を建設しようというふうな計画しておりますので、市もこれに呼応して計画していただくでございす。

現在上須賀、古坂口以外から申請が出てきておりますが申請があつたからそこに建てるという無条件で建てるということにはならぬと思ひます。

やはり地域的な事情、敷地の問題、利用度、そういうものを勘案していきなうと考へてあります。

・市長(本間 義君) 館高、渠立移管の件でございすすが、

これは、再三、再四、陳情いたしまして、この前知事と会つたときにもう陳情の段階ではないというお話もあつたわけでございますが、結局持参金とかいろいろ要求があるらうんですすが、所く教育長、知事等と顔面談をしようということになっておりますが、知事もその腹になつて

おるわけでございます。

。一番(吉田勇治郎君)二つ、三つお伺います。

まず、農協の合併に四十万円、補助金が計上されて
おりますが、今後の指導方針、また現在の状況、それか
ら見通しということについて中説明を願いたいと思いま
す。それから上水道の中の簡易水道関係が三十三万二千円、
こゝに關連いたしましてお伺いたいところがあります。

鉦切簡易水道が見成するに当たりまして水源を二カ所
作ったと思いますが、第一井戸の規模はどう位にして
第二井戸の規模はどう位の予定で仕事をされたか、それ
を伺います。

それから土木費の中の補修材料費でございますが、なか
なか苦しい財政の中で追加予算を求めているだけで我々道
の悪いところに住んでおるものは意を強くするものであり

ますが再三申し上げてはいますが、砂利を入れてもだめなところは何とか考えていただけませんかといふ一たけいども、今までそれが雨が降るたびに流れてしまふという状況がありますので現状を早速見らばよいと、どうしたらいいかということをや判断を願いたいと思うものでございます。市中ではあまたそういう個所があると思うのであります。それで、何カ所位砂利を入れても同じようなことをおつておるところがあるか、それを今後どうやって処理していくか、考えるか、以上三点簡單でよろしくござりますから、市説明願います。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)農協合併の問題、申し上げたいと思います。

促進委員会を作りまして一応の考え方を一まゝして来年の八月合併ということで目標を立てていただい

て、その目標に従って関係者等、話し合いを現在進めて
おる状況でございます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）簡易水道の關係でございます
すが、第一井戸が大体三百のふとさで四十五メートル掘
ったわけでございます。水中ポンプを含めまして、二百六
十八万四千円でございます。

第二、井戸の規模でございますが、二百のふとさで六十五
メートルの深さで二百十五万円でございます。

・土木課長（新井重助君）土木費の路面補修の問題で
ございますが、今回原材料費として二百万の追加をお
願いするわけですが、最近の道路は非常に自動車
が通りますので、痛みが早いということで、当初もう少し
予算を獲得しようと考えたんですが、一応この位の
線ということで予算がきまりまして、今回第三、四半

期に二の位、予算があつたらいいのではないかという
 ことでも願いいたい。なお、交通量が非常に激
 しくなつたということでも深掘りする。それに水がたまってく
 る個所がふえてきますので、二のが整正備につまゝして
 年々やていきたい。かように考えていろいろ調査してや
 っておりますが、すでにそういうところを地元の労力に
 つまゝして修理したところも二三ございます。労力
 ないところは若干残っておりますので、その分については
 さらに調査いたしまして善処いたしたい。かように考え
 ております。

○一番(吉田勇治郎君) 土木課長さん善処して下さい。
 砂利を幾ら入れてもだめなところはだめでございすから
 何か方法を考えることがいいと思います。
 それには予算が一部伴う問題ですから、この予算

問題についても長期にわたればそれが必ずずプラスになる。努力のところはわかりますが、なまじっそう検討をする必要を要望いたします。

井戸の問題ですが、一、井戸と二、井戸と高さが違うようですね。これは事故があつてこういうことになつたんですか。その点も伺ひて参ります。

衛生施設課長(吉田耕一君) 事故があつたわけではなく最初う試掘り当時の計画で四十五メートルということであつたわけでございます。

三三番(三沢節君) 議事進行上、動議を提出したいと思ひます。

ただ今、審議中の議案第八十三号から八十八号、非常に質疑も重ねたと思ひますので、この辺で打ち切りまして一括採決願ひたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)「ただ今、議事進行について、御発言がありまして。さうに決定してよろうございしますか。」

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「異議あり」の発言がございまして、ただ今で起立によつて決めます。

ただ今の動議に賛成の方、御起立をお願いします。

(起立多数)

議長(黒川佐太郎君)「起立多数であります。よつて、こゝにて本案に対する質疑と打ち切り討論省略。原案通り可決するに御異議ありませんか。」

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「異議あり」の発言がありますので、質疑はこゝにて打ち切ります。討論に入ります。

一〇番(辻田実君)

それでは音へ見を述べたいと思ひます。

一つは先ほど申し上げましたように清掃車の問題について、交通違反をいかにして操業ができる保障がない。このような答弁であつたわけでございます。そういうようなことであつては市としても非常に遺憾であらうと思つたわけでございます。

私は法律をもちましてまでもやらなければならぬことについては市民の利益というよりも十分わかります。するけれどもこの種予算につきましては当然計上して交通法規を守らうという前提のもとに操業してもらう。そういう処置がどんなに処置費の中に組まれておらなかつたということについては非常に遺憾であるわけでございます。その点につきましては早急に法律を厳守してそうして市民の利益を守ることをお願いいたしてもらふたいこと

をまず第一点に要望するわけでございますが、こ
う不備な運行の中でまかなわねばならない点でこ
う清掃費の面につきましても十分考慮いたしてもらいたい
そういう面が考慮されないでこれを承認するという
ことにしては又対応をいたさなければならぬというふうに考
えるわけでございます。

二番目に道徳教育のことだろうと思うわけでございま
するけれども四万一千円を願っておりますけれども、實
問の中でわかつたわけでございますけれども、カーなが
う、その運営に当たって薄弱である、納得はいわない
点でございまして、この点について考える必要があるで
はないか、従いましてこの項につきましても私は賛成で
きかねない点であるわけでございます。以上二点申し
上げます。

議長(黒川佐太郎君)賛成の御意見ございせんか。さけ
いは採決に入ります。本案に対する賛成の方の御起
立をお願いします。

(起立多数)

議長(黒川佐太郎君)起立多数であります。

よって本案は原案通り決まりました。

おはかりいたします。

今日の会議時間は議事の都合上、この際あらかじめ
延長いたしたいと思います。

この中に異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)御異議なしと認めます。

よって会議時間は延長さしやうた。

おはかりいたします。

ただ今市長より議案第八十九号が送付されました。
この際、これを本日、日程に追加し、直ちに議題といたした
いと思ひます。これに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 於て異議なしと認めます。

よつて議案第八十九号を日程に追加し、議題とする
ことに決まりました。

議案を配付いたします。

(議案配付) (教育長退席)

議長(黒川佐太郎君) 議案の配付漏れはありませんか。
配付漏れなしと認めます。

議案第八十九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第八十九号 館山市教育委員会委員の任命について

(市長登壇)

。市長(本間謙君)本市の教育委員二名が九月三十日をもちまして任期満了になったわけでございます。従いまして二名の任命をいたすために承知いたしたいと思います。思うわけでございます。

半沢良一君、押本禧便君二名でございますが、半沢良一君は今まで教育委員をやりまして皆さん市案内の通りでございます。

押本禧便君は承知の方もございましょうが、丸山町加茂の出身でございます。大正十三年に安房中学校を卒業して大正十四年に千葉師範を卒業されまして大正十四年三月天津小学校を振り出しに昭和二十一年千葉県視学官、それから二十二年に君津地方事務所、教育課長、二十八年に鴨川町教育委員会教育長

二十八年に館山市立第一中学校長 昨年の三月三十一日に退取された方でございます。兩名とももつとも、備任者と考えまして皆さんより承認をいただくわけでございますが、どうぞ満場一致をもちましてより承認をいただきたいと思います。

議長（黒川佐太郎君）本案に対する中質疑願います。中質疑なしと認めます。よって半沢良一君、押本禧使君任命に同意するに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって本案は原案通り決まりました。

この際申し上げます。工藤教育委員より挨拶をしたいと思います。出がかりで許可いたします。

（教育長入場 登壇）（拍手）

・教育長（工藤和平君）本日私うためにまことに午前中、午後になつて時間的に市迷惑を掛けまして、さらに貴重な時間をお借りいたしまして、まことに恐縮至極に存じます。お許しを得ましてお礼うであいつを申し上げたいと思ひます。私がさうかいになりましては三十一年の十月でございしますが、館山市の教育行政執行というまことに重大な取責をおびまして、市承知うように極めてふびんな男であります。故に、いろいろ皆様方に市迷惑をおかけばかりしたわけでございます。

八年間、どうやらたいした過誤もなく今日を迎えましたことは、全く議長さんはじめ、議会議員、皆さま方、日頃、暖かい市理解、市同情、市支援、たまものと今一たび感謝しておる次第でございます。

特にある時期におきまして、相当長い期間でございます。

―ただ、私の一身上に關するある部内、トラブルがござい
 ましたけれども、その際におきましても、皆さま方から
 非常に暖かい御支援をいただき、ときには、励ましも
 いただきまして、いわゆる駄馬に鞭打って、今日に至ったわ
 けでございます。このことにつきましても、私終生忘れ
 得ない感銘でございます。

ただ今、感激に満ちまして、満ち足りた心で、退任いたし
 ます。私、身、冥加を痛感して、ある次でござい
 ます。私は八年前に市内にささやかな住居を建てまして
 この土地を墳墓の土地ときめまして、永住するわけで
 ございます。

今後、何かとごめつたことになるわけでござい
 ますが、よろしく御交誼、御支援、御協力をお願いするわけでござい
 ます。

まことに蒸辟でございますが、重ねて心から皆さまのや
交誼に對し、まして厚くお礼を申し上げますとともに
館山市政のますますの伸展向上を祈念いたしまして
張命のごあいさつにかえします。(拍手)

議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

本定例会に付議さし、た議事は以上をもってすべ
議了いたしました。よって、会議規則、第一條の規定に
より、本日もつて、定例会を閉会いたしたいと思います
が、
二に、市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)市異議なしと認めます。

よって、第三回市議会定例会は、これにて閉会と決ま
した。
(拍手)

午後 六時 四分 開会

本日、会議に付した事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小柴 孝 館 石 伝 蔵

田中 緑 郎 望 月 照 正

安西 益 男 辻 田 実

石井 正 里 川 佐 太郎

菊井 敏 博 志 村 信 作

小沢 恵 太郎 関 武 夫

西村 真 次 藤 田 好 治

保科忠夫 江田徳太郎

君塚喜三 中村省吾

島野茂樹郎 萩生田七郎

鈴木孝 山田教子

安藤電吉 安沢徳順

三天節 高橋文治

山本昇 松本藤太郎

欠席議員

秋山六三郎 田村源治郎

嶋田繁 鈴木市蔵

山口康

出席説明者

第一日目以下同下

出席事務局取員

第一日目に同ト

昭和三十九年九月二十九日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

黒川修吉

同 署名議員

辻田実

同

鈴木孝

